日南町森林組合広報誌

Green Community

グリーン・コミュニティー

2026.4月号

vol.166

活動報告 P2～
特集記事 P4～
話題 P6
日南町の林業を支える人 ほか P7
お知らせ ほか P8

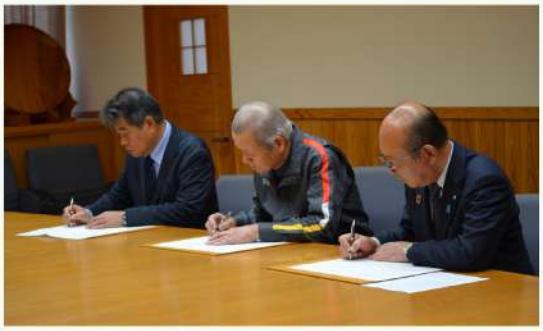
右から、福万来産業代表の坪倉圭祐さん、福田航(わたる)さん、小竹俊彰さん

活動報告 Activity report

12/1 J-クレジット売買契約

長尾石油店(上石見)に組合保有のJ-クレジット(以下、J-クレ) 3ｔをご購入いただきました。同店は、町保有のJ-クレも3ｔ購入されており、この日、役場庁舎で行った売買契約締結式には、同店の長尾公博代表のほか、仲介者の山陰合同銀行の原田直樹生山支店長にもご出席いただきました。

J-クレ４年連続購入の長尾石油店は、前号(vol.165)でお伝えしたクリーン燃料ASPEN2の販売も担っていただいており、長尾代表は「J-クレの概念がもっと前進してほしい」と話されていました。



右から2番目が長尾石油店の長尾公博代表

12/8～ インターンシップ

インターンシップとは、企業などが現役の学生・社会人向けに実施する就業体験プログラムのことで、このたび、にちなん中国山地林業アカデミーの学生２名が、12月8日から当組合の施業現場での造林・林産作業に臨まれました。

終身雇用が難しくなっている現在、インターンシップは、自身の職業適性と就職に向けての職場環境を見極める重要な手段となっています。一方、インターンシップを経ての採用者は、早期離職率が約半分に低下するというデータもあり、採否の大きな判断材料になっています。

林産現場での学生と参観中のアカデミー関係者

12/15 CSサポーター会議

コミュニティ・スクール(CS)とは、学校運営協議会を設置し、地域住民や保護者、教職員らが一体となって学校運営に参画する制度を導入した学校のことです。

この「地域とともにある学校」の実現を目指す日南小学校・中学校の学習支援、環境整備、登下校時の見守りなど、町の未来を担う子どもたちの豊かな成長を願い、CSサポーターは活動しています。

この日の会議では、CSサポーター活動状況と今後の予定について報告とCSサポーター体制拡充に向けての意見交換が行なわれました。

会議に集まったCSサポーターのみなさん

12/18 マッスルスーツ試着

林業の現場で重量物の持ち運びや前傾姿勢での作業は腰や背中に負荷を与え、腰痛や疲労に伴うストレスの原因となっています。

東京理科大学発のベンチャー企業イノフィスが開発した装着型の作業補助具マッスルスーツは、本体重量430gと軽量で作業時にかかる腰にかかる負担を大きく軽減するだけでなく、歩く、しゃがむといった動きの多い作業にも適していると言われています。実際に試着してみた職員の感想も参考に、導入に向けた検討を行います。

マッスルスーツを試着して作業する職員

1/24　農林水産大臣賞受祝賀会

前号(vol.165)でお知らせしましたように、計画的な農林業経営と秀逸な生産活動が高く評価され、㈱神戸上農林が農林水産大臣賞の栄誉に浴されました。

この日、蓬莱で開催された祝賀会には、中村町長のほか、町内外の林業関係者らが相集い、慶祝の意を表しました。

同社の内田敦郎社長は「この賞は、農産・畜産部門での受賞が多く、農林産部門で受賞できたことを誇りに思う。今後も、持続的な施業による地域の農林業の振興に努めたい」とその喜びを語っておられました。

前列右から２人目が内田社長

2/24　日南町森林組合安全大会

林業災害の防止に向けた取組みを推進することを目的とする安全大会を開催しました。

作業の機械化、技術向上などによって、林業災害は減少傾向にはありますが、撲滅には至っていません。午後からの救命救急講習では、日南町防災専門員の渡辺勝也さんを講師に迎え、応急手当(止血)講習と心肺蘇生講習を実施しました。使用する機会は多くはありませんが、ＡＥＤによる救命事例は多数報告されています。これからも安心して働くことができる労働環境の実現を追求していきます。

いざというときのために

3/2　施業の集約化をめざして

町内の森林の集積・集約化による施業の推進を目指し、日南町森林集約化対策協議会の設立総会を開催しました。この協議会は、鳥取県森林の集積・集約化実証事業の予算採択に基づき設立したもので、会長には、木村実次組合長が就任、事務局も当組合に置くことになりました。

事業内容は、本号5頁に掲載していますのでご覧ください。今後、事業受託する業者とともに地域振興センターに出向き、事業説明会を開催、森林所有者のみなさんの合意形成を図りながら、より確実な施業の方向性を策定します。

素材生産の拡大をめざして

3/4　優良切り株コンテスト

林業経験5年以内の者が、胸高直径25～35㎝程度のスギをチェーンソーの「追いづる切り」という方法で伐倒、その切り株から、いかに安全で正確な伐倒が行なわれているかを審査する鳥取県優良切り株コンテスト。この日、エースパック未来中心(倉吉市)で開催された鳥取県林業安全大会において、その表彰式が開催され、㈱久代林業の石川陸翔(りくと)さんが見事に準優秀賞を受賞されました。石川さんは「先輩方にご指導頂いたおかげです。初心を忘れず、精進していきます」と語っておられました。

受賞式での石川陸翔さん（右から２番目）

カラマツ苗木の安定生産技術の確立のために

大林組によるカラマツの樹高調査

1．はじめに

前号（vol.165）のトピックスでもお伝えしましたように、苗木の安定生産技術の開発を目的に、日南町樹木育苗センター内に人工光苗木生産パイロットプラントを設置された㈱大林組が、“人工光と自然光で育苗した苗木”と“自然光のみで育苗した苗木”の植林後の生育状況調査を町内の試験区で実施されました。本稿では、その調査の詳細をお知らせします。

2．人工光苗木生産パイロットプラント

一昨年２月、大林組は、人工光で苗木を安定的に栽培・育成する人工光苗木生産パイロットプラントで育てたカラマツの苗木約700本を自然光によってさらに育成し、樹高・根元径が良好な苗木になったタイミングで植林、同時に、自然光のみで育苗した苗木も植林されました。これほどの本数の人工光育成苗木を、実際の林地に植林した事例は全国初と聞いています。

この人工光苗木生産パイロットプラントでは、季節や出荷時期に応じ、育成に必要な光、温度、湿度、培地への潅水といった育成環境を制御できる人工光による育成期間と自然光による育成期間を最適に組み合わせて運用しておられます。

また、自然光環境下では成長速度が停滞する冬季に人工光で育成するなど、季節や植林計画に応じて柔軟に育成を継続できるため、従来の自然光による育成と比較して安定した苗木育成が可能になるというメリットもあります。

大林組の人工光苗木生産パイロットプラント

3．樹高調査の結果

まず、自然光のみで育苗した１年生苗と比較した場合、人工光苗木生産パイロットプラントで育苗した苗木（以下、「ハイブリッド型苗」という。）の方が、「樹高が高く、根本径が太く、形状比（樹高／根本径）が小さい１年生苗が得られる」という結果が出ました。この形状比が高いと苗木が枯死する原因ともなり、形状比は、80以下が望ましいとされています。

また、現時点ではハイブリッド型苗のほうが自然光苗より、植林後の成長量も大きいという結果も出ています。

4．カラマツの苗木の安定生産を目指して

昨年３月に開催された第136回日本森林学会（於：北海道大学）において、大林組技術本部の下山真人副部長は、「人工光と自然光のハイブリッド型苗木生産システムによるカラマツ苗木の育成」と題し、本町での研究の成果を「苗木を安定的かつ効率的に育成するため、2023年に人工光苗木育成技術を開発し、さらに、鳥取県日南町において、当該技術と自然光育成を組み合わせてコスト効率と生産性を高めたハイブリッド型苗木生産システムを開発した。その結果、根元径が太く、形状比が低い苗を生産することができ、屋外の生育適期を有効利用できることも明らかになった。今後、鳥取県の日南町樹木育苗センター内に設置したパイロットプラントを有効利用し、苗木の安定供給に活用するとともに、より効率的なプラント開発や運用に取組んでいく」と発表されました。わたしたちも大林組の研究をサポートしながら、自然光栽培法への改良へと展開していくことができればと考えています。

森林の面的な集約化をめざして

鳥取県森林の集積・集約化実証事業

1．森林の面的な集約化を目指して

「鳥取県森林の集積・集約化実証事業」とは、林野庁の「森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策」に位置付けられるもので、森林の集積・集約化を加速させるため、地域の林業経営体、市町村、森林所有者等の協議によって、地域の森林集約化構想に基づく森林の経営管理の集約化を行う取組みに対して、その経費を支援し、集約化のモデルを創出していくという事業です。昨年末、日南町森林組合が事業要望したところ、このたび、令和７年度補正予算事業として採択となりました。

2．事業要望の背景にあるもの

町内の人工林面積は、18,419ha、人工林率は60％と県平均の54％を上回り、標準伐期齢とされるスギ35～50年生が2,653ha(18％)、ヒノキ45～60年生が1,645ha(11％)、標準伐期齢を超えたスギ51～80年生が6,131ha(41％)、ヒノキ61～90年生が550ha（４％）という状況で、皆伐施業を要する森林が、10,000haを超えています。こうした状況にありながら、国産材需要と材価の低迷などに起因し、間伐・皆伐といった施業が適期に実施されていない森林も少なくありません。

また、「森林経営管理法」に基づき、町が実施中の「日南町所有山林に関する意向調査」の中間報告によると、今後の山林経営について、「町または民間に山林経営と管理を委託したい」という回答が、「既に委託済」という方を含め、７割を超えています。わたしたちが実施したアンケート(平成28～29年)でも、当時、約１割の組合員のみなさんが「譲渡希望」と回答され、町外在住者に限れば、約３割のみなさんが「譲渡希望」と回答されるなど、組合員のみなさんの森林経営への関心も薄れつつあるのが現状です。

3．事業概要

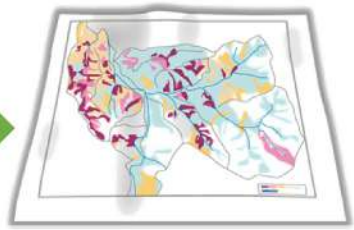
こうした状況下、森林の集積・集約化実証事業（森林境界を外縁のみ明確化し、森林所有者が合意した森林境界保全図に基づき、将来の施業実施時に収益を分配）に取組み、施業が停滞している森林も対象に森林の面的な集約化（目標：1,000ha）を目指します。

モデル地区の設定に際しては、森林経営管理制度における所有者不明森林等の特例措置の将来的な活用も視野に入れ、より確実な集約化を進めていきます。なお、当該事業は、地籍調査の未了地区が対象となります。

4．事業の実施体制

事業の推進母体は、日南町森林集約化対策協議会で、会長には当組合の木村実次代表理事組合長が就任、事務局も森林組合が務めます。協議会には、日南町、鳥取県、鳥取県森林経営管理支援センター、日南町自治協議会のほか、オブザーバーとして、鳥取森林管理署、鳥取県森林組合連合会にもご参画いただきました。当該事業により、素材生産の加速化を図り、林野庁が掲げる“森の国・木の街”プロジェクト(vol.164 6頁)に呼応していきたいと考えています。

①事業説明



②森林境界保全図案の提示
～森林所有者の合意

③森林の集積・集約化

鳥取県日南町の林業

第22回富士フォレストサポート講習会

循環型林業への挑戦

２月27日(金)、津山圏域雇用労働センター（岡山県津山市）で開催された「第22回富士フォレストサポート講習会」に当組合の木村実次代表理事組合長が招かれ、「循環型林業への挑戦」と題した講演を行いました。主催は、富士岡山運搬機㈱（岡山県津山市）で、木材関連業者の生産的かつ持続的な経営を支援するため、年２回の講習会や会員同士の交流会、林業特別教育などを実施しておられます。

組合長の日南町森林組合における循環型林業の実践と町とタイアップした再造林率100%の仕掛けについて、参加者からは、感嘆の声があがっていました。また、にちなん中国山地林業アカデミー教育運営科長の小菅良豪氏も登壇され、実習重視のカリキュラムが特徴の日本初の町立林業学校の運営状況について講演され、町の林業の取組みを広くアピールする一日となりました。富士フォレストサポートは、中国地方を中心に、近畿、四国の会員も増えており、現在の会員は110社と聞いています。情報交換、連携のきっかけ作りの場として活用していきたいと考えています。

参加者からの質問に応える組合長

三百年の時空を超えて今に蘇る

大柄太鼓店(三栄)の４代目当主の大柄重人さん（鳥取県伝統工芸士）は、一子相伝の製法で和太鼓を製作される中国地方でも数少ない太鼓職人で、日南町産の材料に拘った太鼓づくりに励んでおられます。そんな大柄さんの許には、新しい太鼓づくりだけではなく、古い太鼓の修理から、「もっと高い音が出るように」といった要望まで飛び込んできます。

「珍しい太鼓がある」と見せていただいた太鼓は、既に、新しい皮が張られていましたが、胴の内側には、「元禄拾年 丑八月吉日 五條中嶋 太鼓や 三郎兵衛」の銘が入っていた（写真）とのこと。元禄年間(1688～1704年)と言えば、井原西鶴や松尾芭蕉、尾形光琳らが活躍した華やかな元禄文化が花開いた時代です。所有しておられたのは、兵庫県三田市の方。とあるテレビ番組で大柄さんをお知りになり、「今のままではこの太鼓も朽ちていくだけ。大柄さんに保管してもらい、後世に引き継いでもらえれば…」と相談があったのだそうです。胴には亀裂も入り、年季を感じさせますが、修復された太鼓は三百年の時空を超え、江戸時代前期の華やかな文化の香りを今に伝えます。

大阪・関西万博の大屋根リングを設計された藤本壮介さんは、就任時、“木材の時代”の旗手になると語っておられました。

万博後、その決意は現実のものとなり、世界最大の木造建築である大屋根リングは、レガシー（遺産）を超え、持続可能な社会の存立意義まで問うほどの保存論争になっています。

2025年、31回目の日本漢字能力検定協会主催の「今年の漢字」には、人的被害が相次いだことから「熊」が選定されました。残念ながら、「木」は選外でしたが、わたしたちの周りでは、間違いなく「木」が2025年の「今年の漢字」でした。

大柄さんの手で見事に蘇った元禄太鼓

日南町の林業を支える人 Interview

福万来産業
代表　坪倉 圭祐（つぼくら けいすけ）　さん

Q１．林業に就業されて何年になりますか？
小竹林業で５年半、独立して、この春で３年になります。

Q２．林業に挑戦してみようと思われたきっかけは？
県外で重機メーカーの整備士として働いていましたが、小竹林業の同級生の福田くんに誘われ、Uターンしました。

Q３．仕事の内容は？
間伐と皆伐作業で、冬期には除雪も行っています。

Q４．林業の仕事についてよかったと思うところは？
自然の中で仕事をするので、清々しい気持ちで仕事ができることと、施業がすすむと、山がどんどんきれいになっていくところを体感することができ、やりがいを感じています。

Q５．熱中していること、または趣味は？
軽トラックのカスタムが趣味ですが、最近は、仕事が趣味のようになっています（笑）

Q６．今後の目標は？
作業方法をもっと工夫し、新たな林業機械の導入も図るなどし、生産性の向上を図って、山主のみなさんにもっと還元できるように頑張っていきたいです。

今月の表紙写真にご登場いただいた福万来産業の代表　坪倉圭祐さんです。取材へのご協力、ありがとうございました。

理事会開催報告（協議事項等）

令和７年度第５回理事会（令和7年12月12日）

《協議事項》
- 令和７年度上半期仮決算並びに下半期の見込みについて
- 監事監査の指摘事項等に対する回答について
- 役員賠償責任保険加入について
- 再造林積立金取崩について
- 日南町森林組合柔軟な働き方をするための措置の特例に関する運用規程について
- 職員年末賞与支給について
- その他

令和７年度第６回理事会（令和８年2月13日）

《協議事項》
- 令和７年度12月仮決算並びに期末見込みについて
- 株式会社小水力発電公社について
- 令和７年度集約化モデル実証事業について
- 日南町森林組合情報セキュリティ基本方針にについて
- 組合員の脱退について
- 固定資産の取得について
- その他

わが国の木材自給率は42.5%

昨年11月21日、林野庁は「令和６年木材需給表」を公表しました。木材総需要量は8,187.4万㎥（対前年比2.5%の増）となり、8,000万㎥台に回復しました。ただ、国産材の市場シェアを示す木材自給率は42.5%で、全年の42.9%から0.4ポイント減少してしまいました。

木材総需要量の内訳は、国内消費が7,787.1万㎥（対前年比1.8%の増）、輸出が400.3万㎥（対前年比17.9%の増）、供給面では、国内生産量が3,480.9万㎥（対前年比1.4%の増）に増えたものの、外材輸入量が4,706.5万㎥（対前年比3.2%の増）とその伸びを上回ったため、国産材の市場シェアが下がったかたちになりました。

一方、わが国の令和６年度食料自給率（概算値）は、カロリーベースで38%、生産額ベースで64%となっており、生産額ベースでは、比較的高い数値になっています。木材自給率も、まずは、50%への到達を目指したいものです。

忌避剤トリコの効果実験について

前号(vol.165)でもお伝えしましたように、本町の山林でもニホンジカ（以下、シカという。）やノウサギによる「枝かじり」や「剥皮」といった食害が散見するようになってきました。全国の林業家を悩ますこの問題に対処するため、資材メーカーの保土ヶ谷アグロテック㈱と連携し、全国森林組合連合会、日南町、鳥取県林業試験場、鳥取大学農学部、島根大学生物資源科学部にも協力をお願いし、オーストリアの Kwizda Agro 社の Trico（トリコ）という天然成分由来の忌避剤（シカなどが嫌がる成分・匂いを発する薬剤）の効果実験に取組みます。

Tricoは、米国など19か国での使用が認められていますが、日本での使用登録はこれからです。今後、国内販売の認可に向け、越えなければならないハードルはいくつもありますが、忌避剤のドローン散布の実現性なども併せて追究し、生態系のバランスにも配慮し、将来を見据えた獣害対策を構築、全国に発信していきたいと考えています。

ニホンジカによる剥皮被害

森林の集積・集約化実証事業説明会の開催について

3月2日（月）、鳥取県、日南町、鳥取県森林経営管理センター、日南町自治協議会、日南町木材生産事業協同組合、日南町森林組合、そして、オブザーバーとして鳥取森林管理署、鳥取森林組合連合会にもご参画いただき、日南町森林集約化対策協議会（事務局：日南町森林組合）を設立しました。今後、町内各地に出向き、事業説明会を開催します。開催日につきましては、森林組合ＨＰや防災無線、まち協だより等でお知らせします。

組合員名義変更などについて

亡くなられた組合員の方の名義の変更がまだの方は、森林組合までご連絡ください。届出用紙をお送りします。引越しをされてご住所が変更になられた方もご連絡いただきますようお願いいたします。

［担当　総務課］

組合員数（令和８年２月末現在）

正組合員数	1,469名
准組合員数	6名

ご相談窓口
TEL 0120-988-928（フリーダイヤル）
受付時間/9:00～17:00(土日・祝日除く)

山についての相談はこちらにお電話を！

ホームページ　Facebook　Instagram

編集後記

昨年２月、中央教育審議会作業部会はデジタル教科書を「正式な教科書」にすることを柱とする中間まとめ案を策定した。一方、1990年代に教育現場でのデジタル化を図ったフィンランドは、「教育は、急速なデジタル化に対応できるものではなかった。紙の教科書は教室に落ち着きをもたらす」と脱デジタルへとハンドルを切っている。わが国では、こんな議論がなかったのだろうか。

発行元
日南町森林組合
〒689-5211
鳥取県日野郡日南町生山423-2
TEL 0859-82-0130　FAX 0859-82-0321
E-mail　info@n-forest.jp.net
HP　http://n-forest.jp.net